

大阪市イノベーション促進評議会 平成 27 年度第 2 回 会議録

- 1 日時 平成 28 年 3 月 25 日（金）8:00～9:30
- 2 場所 大阪イノベーションハブ（WEB 会議）
- 3 出席者 松本委員長、田路委員、藤沢委員、吉原委員
事務局（吉川理事、高田部長、中野課長、小林課長代理）

■議題

- ・平成 27 年度並びに、平成 25 年度からの 3 年間の大阪イノベーションハブの活動状況と評価について
- ・「うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針」の改定について
- ・平成 28 年度の取組みについて

（事務局）

- ・平成 27 年度第 2 回大阪イノベーション促進評議会を開催いたします。
- ・本日司会を務めますイノベーション企画担当課長の中野です。どうぞよろしく願いいたします。

（各委員）

- ・よろしく願いします。

（事務局）

- ・本日は 9 時 30 分までの予定となっておりますけれども、藤沢先生が所用のため、9 時ごろには御退席されると伺っております。どうぞよろしく願いいたします。

（藤沢委員）

- ・すみません。

（事務局）

- ・本日の議題でございますが、3 点ございます。資料とともに御確認をお願いいたします。
まず、資料 1 で、平成 27 年度の実績と私どもの自己評価、そしてこの 3 年間の自己評価について御意見をいただきます。

次に、資料 2 で、前回に引き続き「うめきた基本方針」の改訂案について。

そして、資料 3 になりますが、「来年度の事業」についてでございます。

あと、参考資料といたしまして1と2がございます。

評価につきましては、本日の御意見を踏まえまして、後日、3月末時点で確定いたしました数値を記入いたしまして、評価表を委員の皆様へ送付させていただきます。

今回の議論でいただきました評価コメントにつきましても、あらかじめ事務局のほうで記入しておきますので、御参照の上、改めてコメントをお願いできればと思っております。

その後、皆様から御記入いただきました評価を松本委員長に取りまとめでいただき、最終的な評価を確定したいと思います。委員の皆様、委員長へ御一任いただくことでよろしいでしょうか。

(各委員)

- ・よろしく申し上げます。

(事務局)

- ・ありがとうございます。
- ・また、「うめきた基本方針」の改定につきましても、本日の議論で、評議会としての意見は確定したいと考えておりますが、万一、確定できなかった場合は、事務局で個別に委員の皆様と調整いたしまして、その結果を松本委員長にお伝えいたしまして、取りまとめでいただきたいと考えております。本日の議論の過程で、これによりがたいと判断する場合は、新年度のなるべく早い時期に再度、評議会を開催させていただきますが、基本的には委員長一任ということで、あらかじめ御了承をいただけますでしょうか。

(各委員)

- ・結構です。

(事務局)

- ・ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。
- ・取りまとめました評価につきましては、5月中をめどに各委員の皆様へ書面にて御報告し、あわせて28年度の目標設定につきましてもお示ししたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
- ・冒頭に済みません、ちょっと長くなりましたけれども、それでは、松本委員長へ進行をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(松本委員長)

・委員の皆様、改めまして、おはようございます。よろしく願いいたします。松本でございます。

(各委員)

- ・おはようございます。

(松本委員長)

・この大阪イノベーションハブですね、平成25年4月に開設しまして、ちょうど3年ということで、3年間事業を実施してきました。今日も7時からモーニングピッチが大変盛り上がり上がっておりまして、全体としては、事業としては大変盛り上がり上がっているのですけれども、評議会として、やっぱりきっちりと、この3年間の総括、あるいは次の3年間の方針などを本日議論させていただいて、皆様方のいろいろな意見を反映させた上で評議会としての意見として取りまとめようと思っておりますので、よろしくをお願いします。

・先ほど事務局から御説明がありました議題について、議論するというところでございますので、大変内容的にも盛りだくさんとなっておりますので、円滑な議事進行に御協力をお願いしたいと思っております。

・それでは、これから事務局から資料に基づいて説明をお願いしたいと思いますけれども、きょうは藤沢委員が途中で退席されるということをお聞きしておりますので、まず事務局から議題全てについて、一括して御説明をしていただいた後、委員の皆様方から御意見を頂戴したいと思っております。

(松本委員長)

- ・そうしたら、一括して説明のほうをよろしくをお願いします。

(事務局)

資料1「平成27年度事業 目標設定と成果、評価など」、資料2「うめきた基本方針の自己評価と改定案」及び資料3「平成28年度の取組みについて」に沿って説明。

(松本委員長)

・ありがとうございました。大変ボリュームの多い内容で、まず一つ一つ議論をさせていただきたいと思います。

・最初に資料1、これはやはり評議会としてはきっちりと大阪市さんの自己評価に対して評議会の意見ということで反映しなければいけませんので、資料1の情報発信からコミュニティ形成、プロジェクト創出、プロジェクトのショーケース、それぞれ実績及び成果を御説明いただいて、最終、総括がオールAということですが、これ、Aより上、Sという

のがあるのですよね。その辺も含めて、まずこのいわゆる評価、27年度自己評価及び3年間の評価について、委員の先生方に御意見をいただきたい、コメントをいただきたいというふうに思っております。

- ・藤沢委員につきましてはお時間が迫ってまいりましたら、ほかの議題、来年度の方針とか、ほかの議題についても御意見、いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

- ・まず、この自己評価の妥当性ですけれども、いかがでしょうか。

(藤沢委員)

- ・自己評価のほう、アウトプット、アウトカム、両方とも拝見したところ、やはりずい分土台ができてきたなという印象を感じています。積み上げてきたものが今、成果として加速して広がってきている感じがしています。

- ・これから次のステージに入るいいタイミングだなと思って聞いていたのですが、3つだけ実際に数値が追いつかなかったところがあるというところで、少し、そこら辺の理由というか、これが足りなかったので、次回、こうしようというところを少し追記していただけたらありがたいかなと思いました。

(事務局)

- ・わかりました。ありがとうございます。

(松本委員長)

- ・ちょっと追記していただくということによろしいですか。

(事務局)

- ・はい。

(松本委員長)

- ・吉原委員、いかがですか、何かコメントはございますでしょうか。

(吉原委員)

- ・よく似たコメントですけれども、もちろん改善すべき点は多々あるとは思いますが、例えば、3年前に戻って今現在を見た場合に本当によくやったという、皆さんがよく頑張ってきたということがよく感じられます。

- ・特に、プロジェクト創出という、いわゆる一番この中でデリバブーとして一番重要なところが、それが大阪、関西の経済圏に対する大きなインパクトを持つわけですから、大きなポッシブルなモメンタムを感じます。

・大阪市の方々は大変謙虚でいらっしゃるのでしょうか、目標未達とはいえ、600人と557名と、そんな重要性のある差でも何でもないですし、国際会議の来場者数にしても650人と602名と、外国人の100人に対して87名って、そんな大差がなく、要は実際にクオリティーですよ、質の問題のほうが重要であって、私なんかざっと読んだ心証から言えば、このプロジェクトのショーケースについても全然Aでも構わないなと。

・また、例えばイベントの参加者数とかいうところに注目を見ると、コミュニティの形成・連結についても大変いいパイプラインをつくってらっしゃるとい結果が出ているので、これもBじゃなくてもいいのではないかと。

・ですから、総合的な評価として3年間でAというのは大変的確で、3年間の皆さんの成果を評価しているレーティングだと思います。以上です。

(松本委員長)

・ありがとうございます。

・大阪市さんは非常に謙虚なところがあって、定量的な目標をきちんと反映されてBということですけど、質をもうちょっと考慮すればAでもいいのではないかという吉原委員からの御意見もありましたので。

・特にコミュニティ形成なんかは新しいバルセロナであったりとか、あるいはテルアビブとの連携も進めるということで、質的には広がっているような気がしますよね。

(事務局)

・はい、広がっています。

(松本委員長)

・吉原委員のおっしゃるようにAでもいいような気がしますけれども、その辺はまたの機会に議論させていただきます。

・すみません、田路先生、コメント、御意見ありましたらよろしく願いいたします。

(田路委員)

・まず、目標はちょうどいい数字だったと思います。9割ぐらい行ったというのが一番、本当にニアリーイコールで、最初の設定もよかったのではないかなと。目標設定がね。

(松本委員長)

・そうですね、簡単に超えると。

(田路委員)

・逆に超え過ぎると、初めはやる気がなかったかと違うかと。非常に恣意的でもないでしょうし、もちろん、それはすごくいい結果だと。

・アウトプットのところでピッチは大事なわけけれども、なかなか投資まで行かないとおっしゃったけど、投資まで行ったケースもあるわけですし、やって3年でなかなか投資まで行かないです、実際。そういう事例もあったということで、これは非常に、私としてはよかったのではないかなと思いました。

・あと、私も毎週くださる報告を見て思うのですけれども、見てみると、こういうハッカソンをやりました、セミナーをやりましたと、結構海外の人を呼んだりとかやっていたよね。イギリスから自分で組み上げる教育用のコンピューターの担当者も呼んできていましたし。何でしたっけ。

(事務局)

・ラズベリーパイです。

(田路委員)

・ラズベリー、あれは私も注目していたので、お会いしたかったぐらいなのですが、さすがだなと思いましたし、いい人も連れてこられて。

・この国際会議でインドネシアの登壇者がということで、向こうで取り上げられたというのも、これ、すごく。こういうところもすごく前面に書いていただくのではないかなと思いますね。大阪から海外へ出しているという部分ですよ。これだけやっているというのはすごくインパクトはあるのではないかなと思います。

・大阪出身ですけど、東京に住んでいて、こう言うのも何ですけど、なかなか東京以外できてないですよ、海外と、というのが。福岡に行っても、札幌に行っても、やはりできていないので、こういうのができているというのは高々とうたっていただくべきことなのかなと、私としては思います。

・定性的なところを評価させていただくと、私も、もちろんAでいいぐらいかなと思いますが、ちょっと自重ぎみにBにして、総合評価はAにされるというのであればそれでも、そこはお任せしたいと思います。

(松本委員長)

・ありがとうございます。コメントいただいた限りにおいては、少なくとも3年間の総括としてはAというのは妥当ではないかというか、非常にいいパフォーマンスが出ているのではないかということですよ。

・それと、このコメントのところに書いてある、定量的なものが割と前半に書いていて、最後に結構重要なことが記載されていますよね。大阪の取り組みが海外でメディアに取り上げられたとか、結構最後に書いているところが非常に重要で、もうちょっとクローズアップされたらいいのではないかなと思いますね。今後の連携、海外との連携がこれから進みそうだとか、そういうことを一応書いてありますので、これも非常にいいのではないかなと思うのですけれども。

・今、全体として、例えば、ピッチが非常に盛り上がってるとか、ハッカソンのところ、これはファクトを考えるとということですかね、そこが多少苦戦するところもあるということでもいいのですか、認識としては。

(事務局)

・プロジェクト創出という観点ではハッカソンはそういう意味での有効性においては苦戦しているという認識ですね。

・ただ、チームの組成という意味では効果はあると考えています。あとはその後のプロジェクトをどう成長させていくかというフォローが非常に重要であると。

・藤沢先生が言われましたコミュニティ形成の未達の原因のところについては、基本的にはあまりプレーヤーたちを集めたとしても、後のフォローオンというところを意識したときに、むやみに量を追いかける必要性はないというふうに、ちょっと潜在意識的にも働きまして、この辺はそのままで流してしまったという気持ちがございます。

(松本委員長)

・なかなかこれだけのボリュームをやっていると、確かにフォローをどうするかという課題はありますよね。

(事務局)

・そういう観点で次期にはシードアクセラレーション事業を外出しにして、専門特化させているというのが反省に対するアクションになっております。

(松本委員長)

・なるほど。大阪市ということで大阪で、グランフロントでこういうのをやっているのですけれども、ほかの委員の先生方は東京ではどういう取り組みとか、あるいは地域ですね、いろいろな、その辺、別に比較するものでもないのですけれども、この大阪市のパフォーマンスというのはほかの地域とか、あるいは東京でのイベントなんか、大阪にいますとなかなか情報が入ってこないというところがあるのですけれども、そういう意味ではどうい

うふうに感じられますかね。特にピッチとかハッカソンというのは結構東京でもたくさんやっていると思うのですけれども。

藤沢先生なんか、結構地域でいろいろな活動をされているのですけれども。

(藤沢委員)

・この間というか、この間だけではないのですけれども、いろいろなところでこういうピッチとかイベントに参加させていただいている中で、非常に大阪のことは皆さん評価を高くしてくださっています。

(松本委員長)

・ああ。それはいいですね。

(藤沢委員)

・先週も沖縄でいろいろな方にお会いしたのですけれども、そちらの方も大阪はすごいですねとおっしゃっていましたし。

(松本委員長)

・沖縄でも。

(藤沢委員)

・皆さん、本当に謙虚でいらっしゃるので、大阪はまだまだみたいに思っているいらっしゃるのかもしれないのですけれども、これだけのことを、特に役所がかかわりながらやっっているというのは非常に注目すべきことだと思います。

・東京を見ていると、役所はここまで手をかけてやっているかということ、とてもやっけませんので、どちらかということ起業して成功した人たちがやっっていたり、ベンチャーの人たちが集まってやっっているケースが多いので、役所主導でここまでやっっているというのは、私は本当に自信を持っていいことではないかなと思います。

(事務局)

・ただ、先生、それはやはり大阪の弱点でもあって、やはり自立化という観点で行くとエコシステムとしては東京のほうが進んでいるよねという、逆に私には聞こえてしまうというのがありますよね。

(藤沢委員)

・ただ、私は決して東京と比べてもやっっていることは劣っているようには思わないですね。ほかの地方と比べたら断トツにすばらしいと思います。

(事務局)

- ・ありがとうございます。またよろしく申し上げます。

(田路委員)

- ・ちょっと田路から。

(松本委員長)

- ・どうぞ。田路先生。

(田路委員)

・東京はサムライ（インキュベーション）もありますし、ドコモとかサイバーエージェントとか、皆さんインキュベーションを持っていて、投資をしたいので、民間企業ですから、その仕組みの中でやっているわけですね。だから、そういうものはどんどんできてくれば、もうはっきり言って公はやらなくてよくなるのですが、世界的に見てもそういう場所というのは実はほとんどないわけで、やはりシリコンバレーとかロンドンとか、それぐらいのレベルに行かないとないので、なかなか首都以外では難しいと思うのです。

・アカデミックな論文を読んでも基本的にはインキュベーションというのは、これ、インキュベーション以上のことをやっていますよね、だからすごいと思うのですが、民間だけではやれないと、なかなか難しい、普通の都市ではということになっているので、別に東京を気にすることはないというか、大阪が東京のようになるとすれば、もっともっと民間のそういうところが出てくるという前提がないとそうできないですから、そう気にされることはないのではないかなと思います。

・今、藤沢さんがおっしゃったように、やっている内容に関しては私はすごくレベルは高いと思うので、逆に民間ができないところをやっていると思います。

・民間ではないから、やはり来てくれる講演者とか登壇者とかメンターってあると思うので、それが一つのよさだと思います。それを大事にしていくのではないかなと思います。

(松本委員長)

・行政は、安心感があるというプラス、例えば今朝もトーマツベンチャーサポート社がピッチイベントをやっています。ものすごい盛り上がっていましたが、パートナーとして非常にいいところを選んでいるなという気がするのですが、そういうのは来年度以降もそういう形でやっていこうということですかね。

(事務局)

- ・はい。

(松本委員長)

- ・吉原先生、そういう観点で何か、もしコメントがございましたら。他のエリアとの。

(吉原委員)

・そうですね。私、日本に住んでいないので。出身は関西ですけど、シリコンバレーに出て30年を超えています。

・もちろん、今回、このイノベーションカウンスルに参加させていただいているのも、別に日本のほかの都市と比べて大阪に頑張ってもらいたいというような気持ちで参加しているわけでも何でもなく、やはり大阪、私の出身場所が日本のベストプラクティスになるように。

・当然、シリコンバレーですとインキュベーションのアクセラレーターなんて山ほどありますから、御社も500スタートアップスとかYコンビネーターとか、いろいろ環境をつくられて、いろいろ利用されていると思いますが、やはり大阪市という色のついていない場所がこれから日本の都市があるべき姿というのを打ち出すというぐらいの気概を持って仕事をぜひともしていただきたいと思います。例えば、東京都が何やっているとか、札幌が何やっているというのは情報の一つとして知っておくのはいいでしょうけれども、持つべき目標は全然高いところにぜひとも持っていただきたいと思います。

以上です。

(松本委員長)

- ・結構ピッチが起点となって投資につながっているのですよね。

(事務局)

・そのピッチですぐというわけではないのですが、それをきっかけにいろいろな人に会ってということですね。

(松本委員長)

・きっかけとか場づくり、そういう場でいいと思うのですよね、そういうきっかけとか場がここにあるということが一つの、ベンチャーにとっては非常に有効だと思いますので。その後、いろいろ紹介されてということですね。

(事務局)

- ・そうですね。はい。

(松本委員長)

- ・結果としてかなりの額になったということで、実績も非常にいいですね。
- ・全体として、総括はこういう感じということでもよろしいですか、委員の先生方。多少

今年度、27年度のBをAにするかどうか、やはり多少また大阪市さんと話はさせていただきますけど、3年間の総括としてはAということで御了承いただきますか。

(吉原委員)

・結構です。

(藤沢委員)

・結構です。

(松本委員長)

・ありがとうございます。

・次に移りたいと思うのですけれども、もし、藤沢先生、いつでも来年度の方針とか、ほかのところでも御意見あれば、ぜひ、途中でも御発言いただければ結構ですのでよろしくをお願いします。

(藤沢委員)

・はい。ありがとうございます。

(松本委員長)

・そうしたら、次の資料2でございますけれども、改定ですね、うめきた基本方針の改定について、引き続き、改定案についての議論に移りたいと思います。

・次期のKPIについて、最新の実績を踏まえて、前回の修正をやっていただいております。前回吉原委員からチャレンジングな数字を設定してはどうかという意見もいただいております。事務局の考えも説明がありましたけれども、この辺についての御意見等を含めて、KPIについての承認も含めて、まとめて御意見をいただきたいと思います。

・資料の2についての御意見ということで。あと、参考資料の2、この辺についての御意見をいただきたいと思っておりますけれども。

(事務局)

・先ほどちょっと申し上げておりましたが、前回の評議会の折りに藤沢先生からAというよりも、それをさらにSにするにはどうしたらいいのかということを考えるべきという貴重な御意見をいただきまして、私どもとしましては今回示したこの水準に達したらA。で、吉原委員からの御指摘の、例えば2倍でプロジェクト200件に達すればSというような形で、より高みを目指しての取り組みを行っていきたいというふうには考えております。

(松本委員長)

・これは基本方針を変えるということですので、評議会として委員の先生方の意見を反映させていただいておりますので、それぞれの先生、いかがですか、藤沢先生、いかがですか、基本方針の目標値の設定見直し、改定ですけども。

(藤沢委員)

・数値に関しては、私、本当、ここ3年の皆さんの御尽力は大変すばらしかったと思っていますし、その方々の感覚というか、これまでの経験に基づいてこの数字が妥当だとおっしゃるのであれば、私はそれに対してこう変えたほうが良いという意見は全くございませんで、これを進めていただけたらよいのではないかと考えております。

・前回私がSにする方法という話をしたと思いますけれども、同様でちょっと時間もないのでまとめて申し上げてしまうと、さらにこの数字を多少伸ばしていくことになってしまいますけれども、先ほどからおっしゃっているようなクオリティーというか、一度のイベントでどれだけの成果を上げる、割合を上げるというのも余り好きな言葉ではないのですが、成功確率を上げるというところの工夫をしていただけたらいいのかなと考えています。

・あと、加えて、いよいよ本格的に海外のネットワークを強化するフェーズに入ってこれたと思っていますので、次年度に計画に関連して、少し追加で申し上げさせていただくと、ぜひこちらのコネクター人材を強化していただいて、結果としてブーメランで日本もまた拡大していくというような形をやっていただけたらいいなと思います。

・もう二つ、最後に申し上げておきたいのが、民間との協働も非常に重要なことだと思いますし、これも土台ができてきたと思うのですが、大企業のみならず、大阪は中小企業も多いですので、いかにして中小企業の方も、ある意味、中小企業の方の場合はお互いを助けるということになるかもしれないのですが、中小企業と大企業とを、スタートアップ等、うまくつながっていけるようなことも視野に入れていただけたらありがたいなと思います。

・この辺は吉原先生のほうがお詳しいと思いますけれども、シリコンバレーのベンチャーと話をしていると、やはりハードベンチャーをやろうと思うと日本のほうが有利かもしれないというような声もありますので、そういう意味ではものづくり系の中小も多い、大阪の中小企業とハードベンチャーをどうつなげていくかみたいなことも考えていただけたらなと思います。

・最後、これから育てていくことも大事だというお話があったのですが、インキュベーションのスピリッツというのはゼロから1を生み出すところと、1から死の谷を越え

ていくサポートをすることで、さらに大きくなっていくところがあると思うのですけれども、役所がやるという意味では、本当、最初のスタートのところと、あとは死の谷を迎えそうなものをどうサポートするかぐらいの、少し絞って考えていただけたらいいのかなというふうに思います。

(松本委員長)

- ・ありがとうございます。28年度の取り組みについても御意見をいただきました。
- ・そうしましたら、もっともっとチャレンジングな目標をとという御意見を前回いただきました、吉原委員、いかがですか。今回の改訂、数値目標。

(吉原委員)

- ・まず、結論から言いますと、大変いい目標になっていると思います。
- ・また、Aという評価を得るための目標がそれなりにチャレンジングにもかかわらず、またSというストレッチのゴールも設定されたということで、ゴールそのものは大変いいものになっていると思います。
- ・ぜひとも、これは必達の目標ということで、これからより一層の努力を重ねていかれると思うのですが、この3年間、次の議題の中で申し上げようと思っていたのですが、民間移行への重要な時期になりますので、大きな、ポッシブルなモメンタムをより加速していただきたいと。
- ・それで、個々の項目を見ていきますと、例えば、SNSなどでつながる件数というのも、事務局からは関西の生産年齢人口を参考に設定したと説明がありましたが、本当に大阪イノベーションハブがすごい成果を出し続けると、たまたま大阪にいただけで日本の皆さんがここにやってくるような場所になるべきだと思いますので、こういう統計は余り私には意味はありません。
- ・SNSというのであれば日本全体、東南アジアも含めて、また、日本のマーケットに興味がある海外のアントレプレナーを考えれば、もちろん、3年で15万人にするという変更をするというのは、それはそれでよろしいのですけれども、余りこの次のブレイクポイントについては余り説得力がないなと思いました。
- ・それと、プロジェクトの件数をふやし、投資額をふやしていくに当たって、せっかく既に何件か、何十件か、事業化したもの、資金を皆さんに出していただいたものというのが出ていていると思うのですが、もう既にやっているのかもしれませんが、ぜひともそれを、そういうケースをライブラリー化して知識を集積し、それを将来のアントレプレナーの方々、

またシェアでアントレプレナーしようと思っている方々とシェアしていただくと。

・それから、こうやってネットワークが出てきている中で、またぜひとも起業家、もちろんもう既に事業化をしているグループもいるでしょうし、これから事業化を目指しているグループもいると思うのですが、起業家同士で学び合うこと、それから悩みをシェアすることというものが切磋琢磨、俺たちの仲間がいるという仲間意識を醸成しますし、上から目線で誰かに教えられるよりも仲間同士で学ぶことも大変重要だと思いますので、そういう場を積極的に設けることによってプロジェクトの件数も投資額もふえる事業にぜひともしていただきたいのと。

・それと、ピッチイベント数で50件はこれでいいのですけれども、うめきた内部だけのピッチイベントではなくて、もっとこういうイベントをパッケージ化して、例えば会社でピッチイベントをやるとか、イノベーション・エキスチェンジを会社でやるとか、大学とか大学院のアントレプレナープログラムの一部としてピッチイベントをやるとか、もっとパッケージ化して、このバーチャルサイト、うめきたという場所を外れたところでバーチャルサイトを念頭に置かれてやったほうが、大阪市がお持ちのスペースだけと考えずに、ぜひとももっと柔軟に発想をしていただきたいと。

・それから、投資のところで去年から大学が我もと横並びで皆さん、ベンチャーキャピタルを始め、国から大変大きな金を回していただいていますけれども、やはりそこに大阪イノベーションハブとして大きな協業のチャンスがあると思いますので、ぜひともつながりを一層強化していただきたいというのが私のコメントです。

以上です。

(松本委員長)

・ありがとうございます。今の貴重な意見、ぜひ進めていただければと思います。企業でも多分、かなりのニーズはあると。大手企業との連携の一つの形でそういう形もあるのではないかなと思います。

・それと、関西でまず、少なくとも関西で連携するという意味では神戸に今度、ちょっと宣伝していいですか、文部科学省の大型のプロジェクト、リサーチコンプレックスという大型が神戸が唯一採択されまして、そこは医療とかヘルスケアとか、生活者基点の事業を生み出そうという、事業化リーダーを出し合っておりますので、ぜひ、こことダイナミックな連携をさせていただければと思っておりますので、そういうほかのイノベーション拠点との連携というものに。これ、かなりの実績とか、吉原先生がおっしゃったパッケージ

でほかでやるとか、あるいはここへ来てもらうとか、そんな連携もあり得るかなと思います。済みません、ちょっと宣伝しましたけれども。

・田路先生いかがですか、この改定、目標改定について。

(田路委員)

・今お話があったように、この生産年齢人口は、でも、これ、書かなければしょうがないのかなと思うので、大阪市の立場としては、でも、気持ちとしてはもっと拡大したところをターゲットにやっておられると、私は思います。

・あと、いろいろお話があって、正直、ここに直接的にあまり書いてないですけど、大企業と連携するのは重要なんだけど、実はとても難しい課題だと思います。やらなければいけないのだけれども、どうするのかというところですね。物すごくオープンイノベーションという言葉がはやっていて、皆さん、そればかり言うのですが、要するに、自分たちの会社のネタがないとかいう話を皆さんされるのですが、だからと言って、彼らが思っているようなネタと今、イノベーションハブがやろうとしていることというのは、私は余り、やはりしていないなと思う。

・やはりITとか、ソフト的なところがメインになるだろうし、イノベーションハブとしては。私はそれでいいと思います。多分、2割ぐらいがハードぐらいになるのかなと思うのです。

・お話があった、昔でいう帝大クラスがやらなければいけないベンチャーファンドですけど、これ、実際にもう始まるみたいなのですが、あそこそハード的なものに出そうというふうにするのだと思います。

・だけど、こういう活動をやっていけば、向こうが見にくるのかなと。そう思っておやりになっていいのではないかなと思います。

・私はたまたま私立大学に勤めていて、余波を受けてないのですけれども、あれをやらされる大学というのは、実は大変で、いい投資先って、やはりないですね、日本の中で、本当に。お金を集めたところで、ファンドをやったところで、きっといい投資先はないだろうという話はもう巷にあふれていて、ITとかソフト的なところは、ベンチャーはそんなにお金、要りませんから、実際、私も学生が起業していると思いますが、むしろモチベーションを上げることのほうがもっと重要で、そこをメインにやりつつ、でも、機会があれば食いついていくという姿勢で、むしろ二次的に考えられていいのかなと私は思っています。

以上です。

(松本委員長)

- ・ありがとうございます。基本的にはこの改定案については評議会として了承いただけるということによろしいですかね。
- ・何か言い残したこと、積み残しがあればコメントをいただきたいと思うのですが。委員の先生方、いかがですか。

(吉原委員)

- ・結構です。

(田路委員)

- ・ここで書いてある案に関してはこちらで結構だと思います。

(松本委員長)

- ・ありがとうございます。一応、案については了承をいただいたと。ただ、いろいろな貴重な意見が出ましたので、それについては大阪市さんのほうで実現に向けて検討いただくということで、そういう形によろしいですかね。
 - ・そうしましたら、最後といたしますか、平成28年度の取り組みについて資料3で御説明をいただきました。
 - ・大きくは新規に書いてあるコネクター人材3名を配置されるとか、あるいはアクセラレーションプログラムをやるとか、学生を対象としたアントレプレナー教育をやるとか、国際会議で民間方式ということが御説明ありましたけれども、この平成28年度の取り組みについての委員の先生方の御意見を頂戴したいと思います。
- 吉原委員、いかがですかね。

(吉原委員)

- ・28年度の取り組みですけれども、コネクター人材ということでこの方々のリソースをお使いになられて、もっとスピード感豊かに先行事例を出そうという意図がよく見えますし、アクセラレーションプログラムについてもより一層の成果を上げようということで、取り組み自身は大変いいと思うのですが、そのツールとして先ほど申し上げたOIH関与の企業事例のライブラリー化とか、シェアリングとか、キーラーニングですよね、OIHで学んだこと、関与した企業の例なんかをパッケージ化されたやつを教育プログラムに使うとか、そういうことを実際にやられたほうがよいと思うのと。
- ・それから、ここ3年間の1年目、大変重要な年でありますから、一番最初に始めたとき

から申し上げていることですが、民間主導、民間への移行というテーマの中で、この1年をどう使っていくのかということ、ぜひとも真剣に考えていただきたいと。それで地方創生の交付金とかいうのをいただくということで、それはそれでよろしいのですが、民間移行になるということを実際に考えた場合に、どういうふうにキャッシュフローを賄っていくかと。確か、一番最初のときに、皆さんと予算の話をしたときに、実質のキャッシュのアウトフローが3億近くになっているという記憶があるのですが、間違っていたら訂正していただければと思うのですけれども。

(事務局)

・市の従業員も含めての話ですね、それは。

(吉原委員)

・はい。3億の、例えば、民間で最初、これを80、20で官民で分けたり、移行、何年かかけて60、40とかいう形で。官の部分が全くなくなるとは思わないのですが、事業の性格上、そのためには毎年資金を集めに、資金ファンドレイジングをするというのは大変なことなので、こういう、どこかで付加価値を生む活動で、その活動の中からフィーナリキャピタルゲインなりを得るというのも一つでしょうし、もう一つは地道に市のトップの方々が関西財界とかに働きかけて、もしくは大阪の何か有名な財団があれば、そういう方々にある程度基本となる財産としてエンドウメントですよね、基金というものを出していただくような方向で、やはり誰かがそれをオーナーシップをもち、今の時点で話を始めないといけなくなる重要な年だと思います。

以上です。

(松本委員長)

・ありがとうございます。貴重な意見をいただきまして、ありがとうございます。その辺はどうなのですかね。

(事務局)

・当初からそういう御指摘をいただいていますので、我々も考えております。

・そういう中で、今回、唯一手を打ったというのは、3年を含めて手を打ったことは唯一とか、2つありまして、一つはアクセラレーションプログラムというのを外出しにしたというところなのですが、ここは非常に付加価値として明確なので、本来は民間企業さんが東京ではやっている形になるはずだろうということで明確に切り分けをしようということにしました。

・もう一つは国際会議の自立化というところで、完全に実行委員会形式でほかのスポンサーさんたちと一緒に受益者でも、明確な受益者の方々をパートナーにしてやり始めたと、この2点が自立化に対する我々の3年間で踏まえたアクションでありました。

・ただ、吉原委員が言われましたような、いわゆるスポンサーシップというところに関する活動というのはまだ十分できておりません。そういう意味ではオーナーシップを持って、やらせていただきたいと思います。

(吉原委員)

・頑張ってください、期待していますので。

(事務局)

・ありがとうございます。その辺、吉原委員もひとつよろしく御指導のほどお願いいたします。

(吉原委員)

・はい。わかりました。

(松本委員長)

・田路委員いかがですか、28年度の取り組みについての御意見、何かコメントがございましたら。

(田路委員)

・アクセラレーションを外に出そうという話があって、その話をこの間から聞いていたので、それは理解しております。それはもちろん賛成で、どんどん出していくということですよ。

(事務局)

・そうです。

(田路委員)

・そのためにここまでしたわけですからね。

(松本委員長)

・はい。

(田路委員)

・私が一番思っているのは、大阪市がイノベーションハブまでつくってこういうことをやらなくてはいけなくなってしまうのは大学が機能していない、日本はと。本当は、ヨーロッパなんか見ると、もっと大学がこういうことを、核となってやっているの

ですよ。ちゃんとアントレプレナーシップのプログラムがあって、コースがあって大学院も、大阪市立大学はやっていますけれども、大分雰囲気が違うね、市立大学のことを悪く言うわけではないですが、スウェーデンなんかは若い子そのまま修士に行って、そういうプログラムに入って、それをバックアップする地方の自治体とか大学がきちんとあるのですよね。

・日本は何だかんだいって、全国的にそれがほとんどできていないのが実態で。だから大阪市がこれだけやらなくてはいけなくなっていると私は理解しているのですが、そういう意味でこの学生等を対象とした強化プログラムをやっていただくというのが、すごい、私にとってはうれしいです。

・東京もそこはやはり放置されていて、やらない大学はやっていません。はっきりいって、法政大学はイメージだけで、私のいる経営学部は科目でベンチャー企業論とかアントレプレナーシップの授業すらないんですよ。中小企業論という中で勝手に教えろということになっておまして、50何人もいながらそういう科目を配置しないという不思議な状況になっていて、私がゼミでやったり、授業の全然違うイノベーションの授業の中でそういうコマをやったりしているという感じなのです。

・私立大学はその程度だし、国公立もまだまだ、全然、よその国に比べると全くいけてないと思うので、だから、そこは気概を持ってやっていただいているのかなと思います。

・若い子って教育すると覚えていて、たとえすぐに起業しなくても、そういう教育を受けた子って、私は効果があるなど、10年やって思っているのです。ベンチャーに就職したり、起業する子ってだんだん出てくるんですよ。

・そこで若いときにこういうのがあって仕込んでおくというのはすごい重要だから、これこそ本当にやっていただきたいなど。だから、シリコンバレーツアーに連れていっていただいているのもすごくいいことだし、そこに入居している、利用しているスタートアップに学生がインターンシップしているのもとても重要なことだし、それを私としては、私、ちょっと遠いのですが、どうにかして応援したいなど本当に思っています。

(松本委員長)

・ありがとうございます。

(田路委員)

・ここ、ぜひお願いしたいなど。

(松本委員長)

・先生に来ていただいて。学生対象の。

(田路委員)

・そうですね。

(事務局)

・そうでしょうか。

(松本委員長)

・ええ。学生等を対象とした。等って書いているのは、学生だけではないということですか。

(事務局)

・そうですね。学生に限っているわけではないです。

(松本委員長)

・若い人ということね。

(田路委員)

・はっきりいって、若年の人ということだと思います。

(松本委員長)

・これ、大阪にはグローバルアントレプレナーの文科省のプロジェクトで、大阪府立大学が熱心にやっていますから。去年、なんか連携されていましたよね。

(事務局)

・連携してやっています。エッジプログラムと言われているものです。

(田路委員)

・O I Hでやっているのですね。

(事務局)

・ええ。関西では大阪大学、府立大学、立命館大学、奈良先端大（NAIST）等の6校が選ばれていて、そのピッチイベントはこちらでやるという形でさせていただいております。

(田路委員)

・なるほど。それは。

(松本委員長)

・連携は既に行っているのですが、ここでももうちょっと主体的にもやろうということですかね、これは。

(事務局)

・はい。

(田路委員)

・今、エッジで雇った人たちが任期つきであったりして、どうなるんやという話はあるわけですね。だから、やはり専任の教員の意識改革が必要かなと、私、最近思います。

(事務局)

・そうなんです。だからやはり専任というのは物すごく大事なのですが、なかなか役所の事業というのはほとんど専任という考え方がとれない構造になっているのが一番の問題だと思います。

(田路委員)

・大学の担当者もそうですね。だから、違う研究をしてもアントレプレナーシップはこれから世界の主流なのだから、研究にしなくても、せめて教育ではもっとやりなさいというふうに持っていかないといかんなと思っております。でも、昔よりはベンチャーとかアントレプレナーシップの研究をする人、ちょっとずつふえていますよ。専任教員の中でも。やっぱり主流テーマになりつつあると思うので、ここ、あと、3年、5年でもっと変わるのではないかなと私は思っていますけれども。

(松本委員長)

・ありがとうございます。

(田路委員)

・ちょっと、また考えましょう。

(事務局)

・はい。そうですね。よろしくお願いします。

(松本委員長)

・先生もぜひコミットしていただいて。

(田路委員)

・法政の学生を連れていってもいいですし、大阪に。

(松本委員長)

・いいですね。

(田路委員)

・それは近いですから、海外に行くよりよっぽど近いので。

(松本委員長)

・そうですね。これ、具体的に教育プログラムをつくるって、具体的な話はこれからですか。

(事務局)

・これからです。

(松本委員長)

・講師をどうするかとか、そういうのもこれから。

(事務局)

・はい。

(松本委員長)

・これからですね。ただ、一応、方針に入れるということはやるということ。その前提で。

(事務局)

・やると。裾野を広げると。よりそのほうが行政の施策にはなじむだろうというふうに考えているということです。

(松本委員長)

・なるほど。また少しだけ宣伝しますと、神戸のリサーチコンプレックスというのは融合研究グループと人材育成グループと、私がリーダーをやる事業化グループとあるのですが、人材育成グループは神戸大学が今度4月に科学技術イノベーション専攻科というアントレプレナーシップの専攻科を新たにつくって、そこはぜひ、ちょっと大阪イノベーションハブとも連携したいという強い要望がありますので、そういう、ほかと連携してやらないと、なかなかスタッフをそろえるのは難しいと思いますので、その辺も、他とのコラボ、ぜひ進めていただければと。

(田路委員)

・そうですね。神戸大学は新しいのができますよね。

(松本委員長)

・ええ。4月につくるんですよ。

(田路委員)

・なかなか大変だと思いますよ、理系の中にああいうのをつくってと。だから、すごい向こうは困っていると思うから。

(松本委員長)

・ええ。困ってはるんですよ。

(田路委員)

・うまく活用してあげればいいのではないのでしょうか。大阪市のほうが立場が上だと思います。

(松本委員長)

・上です。実績もありますしね、大阪市は。ただ、あそこは経営学部がありまして、神戸大学、経営学部の先生があそこはかなりコミットされるのです。

(田路委員)

・もう法政に移したのですよね。

(松本委員長)

・移しました。尾崎先生なんかもあそこに行かれますので、東京から。

(田路委員)

・ええ。そうですね。

(松本委員長)

・あそこの特任教授も私、やらせていただきますので、またよろしくお願いします。ちょっと宣伝。神戸の宣伝ばかりしたら、大阪に怒られます。

(事務局)

・いえ、いえ、そんなこと。連携をするというのがテーマになっておりますので。

(松本委員長)

・あと一点、コネクター人材配置と随所に出てますけども、これはまだこれからかもしれないですけど、具体的にどういう人を3名雇って、どういうことを、役割としては書いてあるのですけれども、具体にはこれからですか。

(事務局)

・いいえ。海外での起業の経験特にシリコンバレーで起業の経験とか、起業の支援の経験がある方がいらっしゃるのですけど、そういった方を中心に3名。いずれもアメリカでの経験というのをお持ちの方ばかりです。

(松本委員長)

・もう決まっている。候補が。

(事務局)

・候補というか、もう決まっています。

(松本委員長)

・なるほど。そういう方をここに。これ、いわゆる常駐されるのですよね。専任ではないのですか。

(事務局)

・専任ではありますけれども、完全な常駐ではなく、半分ぐらいをその方のエフォートの半分ぐらいを割いていただくという、そんな。

(松本委員長)

・エフォートの50%ね、はい、わかりました。

(事務局)

・そういうことになっています。

(松本委員長)

・もう一点、国際会議の実行委員会方式と書いてます。これ、一言で簡単にどういう。

(事務局)

・分担金方式で費用も案分しながら民間企業のいろいろは協賛も得ながら、ネットワークを広げて発信力を高めていきたいというようなやり方です。

(松本委員長)

・わかりました。全体、平成28年の取り組みについて、もし追加のコメント、意見がございましたら、いかがでしょうか。

・それと、もう最後になりますので、遡ってほかの案件についても言い残した点、御意見等何かございますでしょうか。吉原委員、よろしいですかね。

(吉原委員)

・そうですね、一つだけです。これから民間移行の時期を迎えると、当然、過去皆さんでやっていらっしゃった仕事を外部の人ということでお任せになるときに、今回のコネクター人材もそうですけれども、アウトソースするときの業者の皆さんもそうなのですが、やはりキーは最初にはっきりと共通のゴールを設定するということですね。ちゃんとゴールセッティングをした後で、そのパフォーマンスを定期的にフェアにレビューすると。

・そのプロセスそのものを透明感豊かに、トランスペアレンシー、それから最後にケア期間の更新の前にアカウントビリティを発揮させるということをやっただけであればと思います。以上です。

(松本委員長)

・ありがとうございました。最後に田路先生、もし何か追加のコメント等、全体の話でも

結構ですけれども。

(田路委員)

・さっき、思いつき話しちゃいました。

(松本委員長)

・ありがとうございました。

(田路委員)

・はい。

(松本委員長)

・貴重な意見を委員の先生方からいただいたので、ぜひ大阪市さん、それを反映して、若干の、もしかしたら修正があるかもしれないですけども、基本的には今回、評議会としては今回の事務局案については一応、御賛成いただいたと。基本的なところは御賛成いただいた。パフォーマンスを上げるための質であったりとか、そういう貴重な意見についてはぜひ今年度の評価も、あるいは来年度の方針にぜひ反映させていただきたいというふうに思っております。

・今回のところについては事務局と私でまた練り直しさせていただいて、最終案ということにさせていただきたいと思います。

(事務局)

・はい。お願いします。

(松本委員長)

・委員の先生方、ありがとうございました。本日は非常に貴重な意見を頂戴しました。大変御多忙のところを御参加いただきましてありがとうございました。本日の評議会は以上としたいと思います。

・あと、残りの時間で連絡事項等が事務局からあるということでございますので、事務局から最後、説明のほうをお願いしたいと思います。

(事務局)

・ありがとうございました。長時間御参加いただきまして、ありがとうございます。また、貴重な御意見を賜りまして、来年度以降の事業にぜひとも反映していきたいと思っております。ありがとうございました。

・また、冒頭にも申し上げましたように27年度及び3年間の評価につきましては後日、3月末時点で確定いたしました数値を記入いたしまして、評価表を送付させていただきます。

す。御参照の上、改めてコメントをお願いできればと思っております。

- ・その後、皆様から御記入いただきました評価を松本委員長に取りまとめを行っていただき、最終的な評価を確定いたします。

- ・取りまとめた評価について、5月中をめどに各委員の皆様へ書面にて御報告し、あわせて28年度の目標設定につきましてもお示ししたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

- ・来年度の評議会は今年度と同様、上期と下期の2回の開催を予定しております。引き続きの御参画のほう、よろしくお願いしたいと思っております。

- ・本日は以上でございます。ありがとうございました。

(全員)

- ・ありがとうございました。